

- ① 組合立乙種農業学校設置に関する件。
- ② 組合立乙種農業学校学則案。

③ 大正九年度組合立乙種農業学校歳入歳出予算案を可決し、開設にふみだしたのである。開校の経緯は以下の通りである。

四月二十七日、豊岡町外九か村組合設置の件および学校設立の件が認可される。六月十四日、群馬県館林農学校校長兼教諭木村良雄が、本校校長兼教諭に補せられた。七月五日、農学校規定によって入学資格高等小学校二か年卒業程度により修業年限二か年、生徒定員八〇名の豊岡町外九か村学校組合立豊岡農業学校が、尋常高等小学校内に設立された。七月十四日、桑田源次、池田久四郎が嘱託に就任。七月二十八日、市川喜重が書記に任命された。八月二十四日、稲葉可吉が教諭に任命された。十二月二十三日、土屋安治が教諭に任命された。

十二月七日、豊岡町農会蚕業講習所の事務所（当時埼玉県入間郡豊岡町大字黒須一八八）において授業が開始された。

校地（借地）として建物敷地が三〇〇坪、運動場が一五〇坪、農業実習地が水田二九一坪、畑二七〇〇坪（蔬菜園六〇〇坪、果樹園一五〇坪、桑園四五〇坪、普通作物一五〇〇坪）が使用された。

このようにして七月より十二月にかけて教諭が任命、嘱託や書記も委嘱され、授業開始準備が整ったのである。

教育体制が整うと、各教諭は他の農業学校の教科編成を参考にして、教科課程及び毎週の授業時間数を次の通り決定したのである。

国語（四）漢文（一）修身法制経済（三）数学（三）理科（物理化学博物）（三）農業（一二）英語（三）その他（書道）（二）。

なお、第一回入学生徒数は、第一学年、第二学年合計して二八名であった。

授業料は組合内の生徒一か月金一元、組合外の生徒一か月金二元を徴収した。組合内は豊岡町、三ヶ島、藤沢、宮寺、元狭山、金子、東金子、入間、水富、柏原の各村である。

かくして、豊岡町外九か村学校組合立豊岡農業学校が誕生した。

この年の十二月十六日、実業学校令は「勅令第五六四号」により大幅に改正された。本校は開校後、間もない改正令であったから、教科課程に変更を加えなかった。

文部省は翌大正十年一月十八日、省令第五号によって「二種以上の実業学校の学科を置く学校に関する規程」を出して、実業学校に農業科・商業科・工業科などを置くことを認めめた。

できごと

大正9（一九二〇）年



初代校長
木村 良雄
(大9~大15)

- 1月 10日 国際連盟成立。日本加盟
- 4月 27日 豊岡町外九か村（藤沢・宮寺・元狭山・金子・東金子・入間・水富・柏原・三ヶ島）学校組合の件および学校設立の件認可される
- 6月 14日 木村良雄（群馬県館林農学校校長）初代校長となる
- 7月 5日 学校組合立豊岡農業学校が豊岡小学校内に設立される。修業年限二年、入学資格高等小学校卒業程度、生徒定員八〇名
- 10月 1日 第一回国勢調査実施される
- 12月 7日 豊岡町農会蚕業講習所にて授業を開始する

実業学校令の改正が次々と出されたのは第一次世界大戦を経て、新産業が一大転換期を迎え、工業・農業・商業・商船・水産など実業学校の専門化が急がれたからである。

大正
1921~26

十五年

勉学に勤しみ、

技術を会得

卒業生を送り出し、同窓会を創設

教材も完備しない状況であったが、教師陣の熱意あふれる指導の下、最初の入学生は規程の学業を修め、大正十一年三月三十日、修業年限二か年制の第一回卒業証書授与式を迎えたのである。卒業生は二六名であった。

この制度は、引き続き昭和三年（一九二八）三月二十四日の、第七回卒業証書授与式まで続き、挙行された。その後、教諭の転入・転勤もあったが、教科課程の変更はなかった。

◆新思潮の展開と豊岡大学

豊岡農学校が呱呱の声をあげた時代は、わが国が政治・社会・文化など広汎な分野にわたり、民主主義や自由主義の思想を背景とする、大正デモクラシーと呼ばれる新思潮の展開期であった。この運動は憲政擁護運動に始まり、国民諸階層に民本主義論をひろめた。また第一次世界大戦後の好景気と、その反動による不況の繰り返しは、労働争議や小作争議を勃発させ、民衆運動の高潮期でもあった。大正デモクラシーの潮流も原敬内閣以降は、社会運動として多彩に全国化し、婦人解放運動や農民組合の結成など多様化した時代であった。

本校が誕生した豊岡町においては、この風

潮を把握しながら地域の社会教化をめざす、熱血町長繁田武平の文化活動が存在した。

それは豊岡公会堂の新設と豊岡大学の開催である。明治三十三年（一九〇〇）、町長に就任した繁田武平は町の運営にあたり、町是調査会を設置し、「町是六大綱」を決定した。すなわち、①実業教育、②風俗矯正、③共同購入、④節儉組合、⑤信用組合、⑥基干財産蓄積である。

第一に掲げた実業教育の施策が後年、本校の誕生に結果したのである。

さらにこの町是は、一、町有基本財産の蓄積、二、実業とくに農業の発達、三、制糸糸業の発達、四、青年の風紀矯正、五、教育の完備の五大綱にまとめられ、豊岡町百年の大计として、その後の指針とされたのである。



組合立豊岡農業学校第2回卒業生（大正12年）

そして、町是の確立は住民の成長如何にあらんと考え、公会堂を新設し、ここに著名人を招聘し豊岡大学を開講したのである。今日でいえば大型のカルチャー講座である。本校の教師も聴講し、大いに感銘をうけたという。

大正十四年より昭和十四年（一九三九）にかけて、招聘された講師を列挙すれば次の通りである（○の数字は回数）。

①齋藤守因（知事）、粕谷義三（衆院議長）、矢作栄蔵（農学博士）、田子一民（内務省局

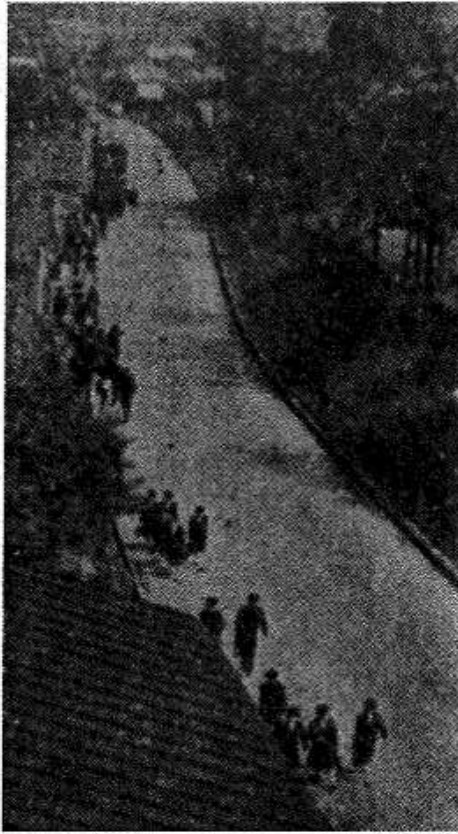
三十八年度 最後を飾る農業科

学校整備計画固まる

◆新校舎（第二期工事）完成する

昭和三十八年は商業科二二二名、普通科二五六名合わせて四七七名の新入生が入学した。前年から普通科が設置され、豊高は新しい時代を迎え、多くの生徒が入学し、それに伴い校内の施設も大幅に整備されることとなった。

鉄筋コンクリート三階建ての新校舎（現在の一号館東側）は、四月二十二日に起工式が行われ、予算三、八〇〇万円である。



登校風景（正門付近）

新館（現在の二号館東側）と繋がる渡り廊下部分が昇降口（玄関）となる。新校舎は一階に事務室、校長室、職員室が入り、二、三階は教室となる。

そして、今までの通用門が拡張され、正門となり、正門だったところがグラウンドに入る通用門となった。落成式は三月二十八日に生徒も参加して盛大に行われたが、それに先立ち新校舎への引越は十二月にあった。

また、新校舎の建設と合わせて、講堂の西側にシャワー室が作られ、六つのシャワーが設置され、運動後に汗を流すなど生徒に喜ばれた。これと同時に校庭の各所に水道も設けられ運動環境の整備が図られた。

さらに、混雑きわまりなかったパンの販売所が九月に本館裏に新築され、大きな窓があり明るい作りのものと

なった。そして、今までパンが販売されていたところで牛乳が販売されることとなった。

◆最後の農業展

農業科はこの年を最後に豊高の歴史の舞台から消えることになるので豊高祭では、精一杯の飾りつけをした。豊高びいきのお客さんは淋しそうに展示物を眺めていた。

そして、三月には二三名の農業科の卒業生を最後に農業科が閉科となった。

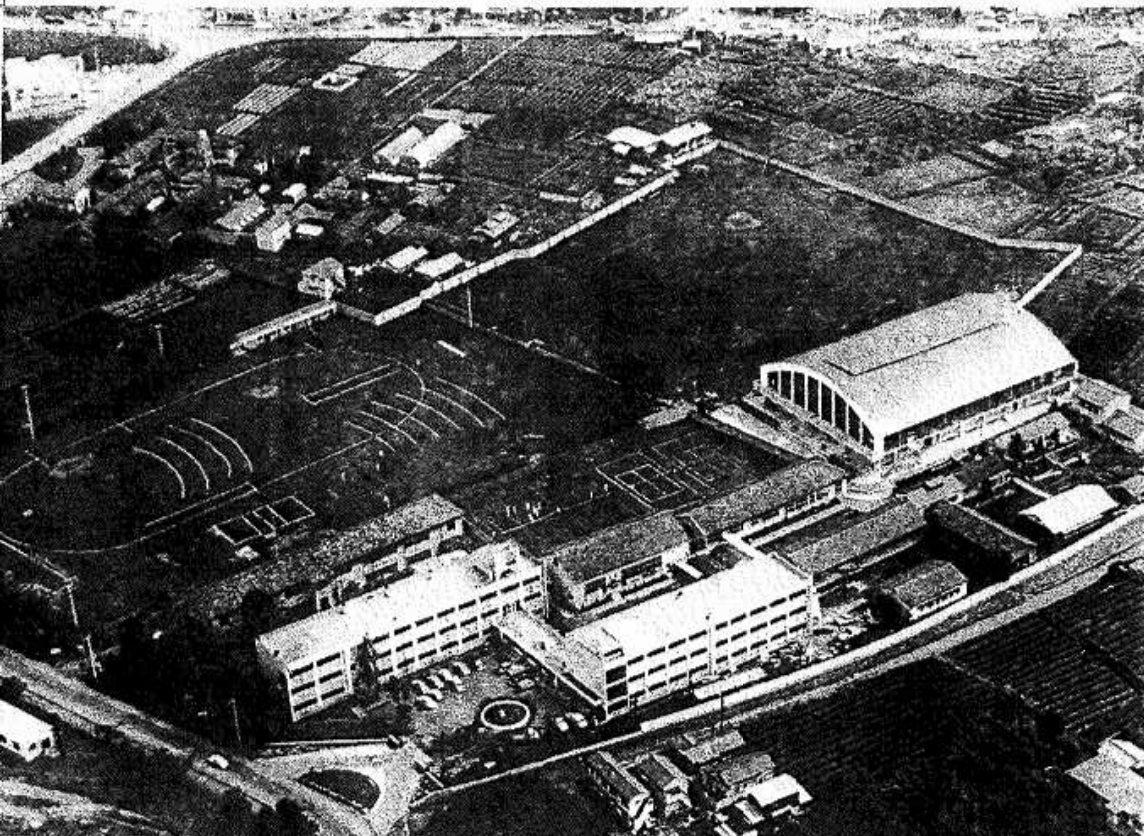
◆豊高整備計画

新校舎（現在の一号館東側）ができあがると、さらに西側に新校舎と同じ大きさの校舎を継ぎ足す。本館は取り壊し、体育館とプールを図書館の西側に建設し、その南側が野球場となる。陸上用のトラックが北に移動し、南側にテニスコートとバレーコートができる予定であった。

◆成績の評定方法が変わる

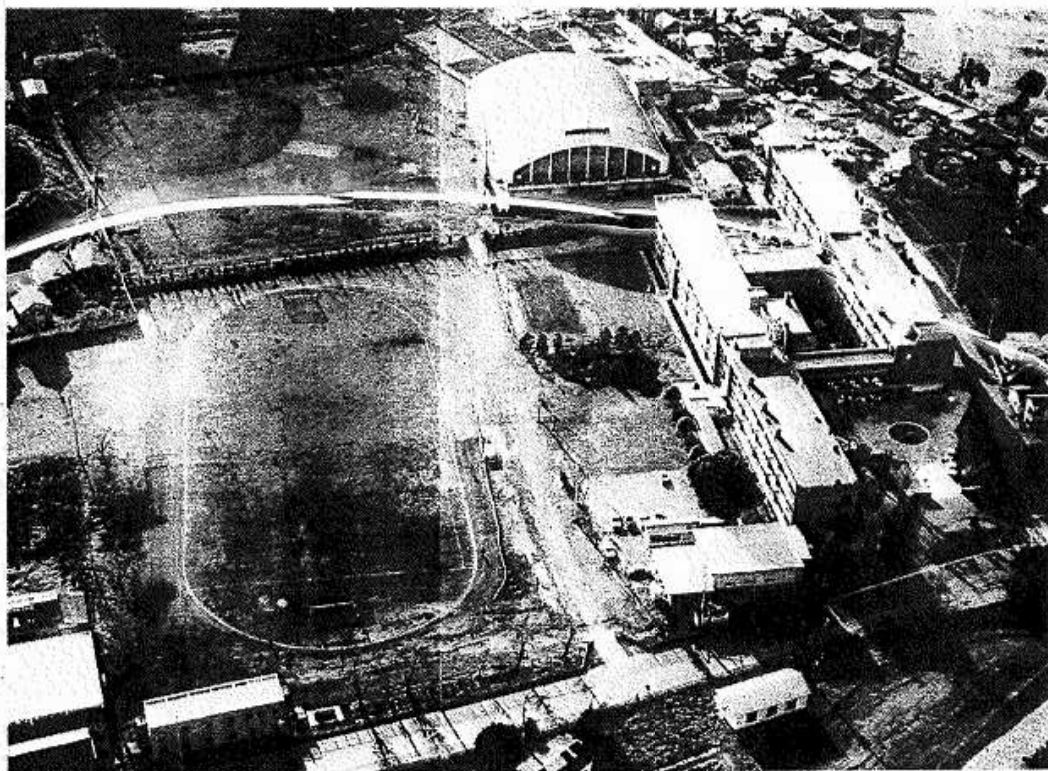
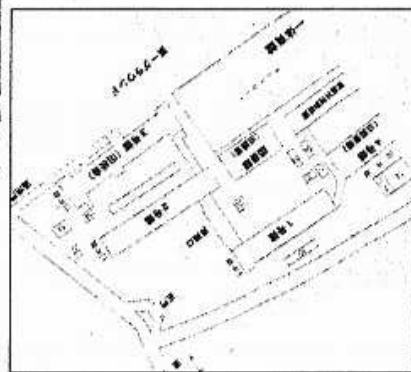
評価方法に十段階法を採用

各学期末に生徒に渡る通知票の記載方法が



【航空写真③】
豊岡高等学校
《昭和42年頃》

第1グラウンドは拡張され、第2グラウンドも完成し、正門は4代目。手前のコンクリート校舎が1号館、渡り廊下でつながっているのが2号館、それと平行して建っている木造校舎が3号館である。2号館の右隣が、講堂を曳家して改築した図書館で、右隣に建つのが家庭科特別教室棟である。1号館の右側にある建物は、図書館の建物を改造した4号館。校内で最も目立つ存在が、昭和41年に建てられた体育館である。3号館の左隣の給食室が竣工したのが昭和43年なので、この撮影は昭和41年～42年の間と考えられる。学校前の道路は現在のけやき通り。手前が西武鉄道入間市駅(昭和42年に豊岡町駅から改称)となる。グラウンドに隣接している建物群は埼玉県茶業研究所。



【航空写真④】
豊岡高等学校
《昭和49年頃》

右側が1号館、左側が2号館で現在の豊高の姿に近づいている。2号館の手前にある2階建ての建物が給食室で、2号館の向こうに建つのが体育館である。この写真は昭和49年度の『学校要覧』の中表紙を飾っている。そのため撮影されたのは、昭和48年の後半から昭和49年の初め頃かと考えられる。校舎前の道路が現在のけやき通りで、右側に西武鉄道入間市駅がある。道路の手前側は米軍ジョンソン基地である。写真右奥の開けたところは、入間市立豊岡小学校のグラウンドである。写真左端上部に見える土盛りは建設中の入間市庁舎で、昭和49年3月に竣工。

